

# 住家被害認定調査等へのデジタル技術導入に係る研究会(第2回)議事要旨

【開催日】 令和6年2月29日(木) ※オンライン形式にて開催

## 【議 題】

- (1) ユーザビリティテスト実施結果について
- (2) 精度検証経過及びその評価基準について
- (3) 能登半島地震を踏まえた対応について

## 【議事概要】

- (1) ユーザビリティテスト実施結果について

### ◆主な発言：

- 一部の区市町村及び都職員にて、ユーザビリティテストを実施。挙げられた意見については、今年度の開発内容に一部反映。
- まずはA I部分の開発を行っているが、関連システムとの連携も含め、本システムの対象範囲については開発コストと利便性・効率性との兼ね合いになるだろう。来年度以降も引き続き検討されたい。
- システム操作の不明点に対する改善策として、災害現場での活用を考えると、マニュアルに記載するのではなく、画面上に表示するなど、直感的に分かるように改善するのがよい。

- (2) 精度検証経過及びその評価基準について

### ◆主な発言：

- 損傷箇所を見つけ出す正確性(リコール)と、見つけ出した損傷箇所の程度判定の正確さ(プレジジョン)は、トレードオフの関係性にある。
- あくまでも業務をサポートするという視点からプレジジョンを重視することも一定程度理解できるが、ある程度リコールも上げていく必要がある。目標値などは今後も検討していく。
- システムで解決しきれないところを運用側でカバーする、というのはシステム開発でよくみられることだが、研修等でフォローしていくことが重要。

- (3) 能登半島地震を踏まえた対応について

- 能登半島地震では、タブレット等を活用した住家被害認定調査が行われていると聞いた。調査員が実際にどのような写真を撮影しているか、市町から提供を受けるなどして参考にできると良い。

- 能登は建物の形が余りにも東京と異なるため、学習用データとしたときにA Iの精度にどのような影響を与えるのか、注視する必要がある。
- 調査票の取扱い等も含め、今後も能登半島地震を踏まえた検討は引き続き行っていくべき。